

19

42年生まれのシニアAの最大の関心事は「超高齢化社会の到来」である。「いきいきと(生きがいを)感じて、また自立して、元気に暮らしていくこと」が願いだ。そもそも、シニアの生きがいとは何か？シニアはどのようなときに、幸せと考えるのか？

このようなシニアの考え方の傾向に関連して、Bowlingらが実施した調査¹⁾がある。この調査では、「あなたのQOL(Quality of Life:生活の質)の定義は？QOLの向上に資する要因は？幸福感の要因は？」について、英国在住の65歳以上のシニア、999人にアンケートした。81%のシニア回答者が“Good Social Relationship(良好な社会的関係性)”を重要な要因としたことを報告している。

この事例のように、多くのシニアが「社会とのつながり」を欲しているのではないだろうか？少なくともシニアAにとっては、「社会参加」がきわめて重要なキーワードだ。シニアの社会参加に関連して取り組んできた研究を紹介したい。

1)シニアのための生涯学習パラダイム²⁾

シニアAは2010年の特別研究期間に、ヘルシンキ大学で「シニアの生きがい探しとその実現を支援する学習パラダイムの在り方」の研究に従事した。シニアの学習者群をその学習目標から、「社会貢献」と「自己実現」を重視する2つに大別、さらにそれぞれを2つに細分し、4つの学習者群(GA1:生涯現役派、GA2:ボランティア派、GB1:教養派、GB2:趣味派)に分類し、各学習者グループに必要とされる生涯学習パラダイムの在り方を論じた。学習者グループGA1およびGA2が社会参加と直接関連していることは言うまでもないが、学習者グループGB2でも同じ興味を共有するコミュニティづくりが行われている。シニア学習者は総じて「社会とのつながり」を大切にしており、ネットを介したコミュニティづくりの支援などのIT施策が求められる。

浦野義頼 Yoshiyori URANO

[正会員] urano@waseda.jp

1970年早稲田大学大学院博士課程修了。同年国際電信電話(株)(KDD)入社。1993年同社研究所長。1996年早稲田大学教授。2012年早稲田大学名誉教授。2013年華北電力大学客員教授。1994年本会理事。2002年本会フェロー。

2) G2G (Generation to Generation) コミュニケーション

前述のBowlingらの調査は、シニアが「社会や家族とのつながり」に幸福感を覚えると指摘している。シニアAも充実した生活を送るために、同世代同士のコミュニケーションだけでなく、世代を超えたG2Gコミュニケーションの有用性に注目している。ネット(スマホなど)を介した孫とのG2G(Grandparents to Grandchildren)コミュニケーションはその典型的なモデルといえよう。シニアが「らくらく」使えるだけでなく、孫世代とのコラボで、シニアに「わくわく」、「ドキドキ」を感じさせるようなスマホ(アプリ)の開発を期待している。



[シニアコラム]

IT好き放題



[No.43]

シニアAの挑戦

以上、シニアの社会参加に関連する研究などを紹介したが、論旨がシニアAの個人的な感覚に基づくところも少なくない。しかし、実際にはさまざまな背景を持ったシニアがいるわけで、今後はより多くのシニアの傾向を考慮した研究にも挑戦したい。

情報処理学会第76回全国大会で、喜連川会長は「2万人の会員を有する学会を有効に使おうではないか」と呼びかけられた。本会のシニアは何を生きがいと感じるのかなどが調査され、「eポートフォリオ」が抽出できれば、会員諸氏の素晴らしい、そして素敵なシニア・ライフの手掛かりがつかめるのではないかと期待している。また、その全国大会のセッションで「学会へ行こう!若者の夢が実現できる場所」があったが、「学会に行こう!シニアの夢も実現できる場所」も加えたい。シニアが学会にできること、学会がシニアにできることをぜひ、論じたいものである。

参考文献

- 1) Bowling, A. et al. : Let's Ask Them : A National Survey of Definition of Quality of Life and Its Enhancement among People Aged 65 and Over, International Aging and Human Development (2003).
- 2) 浦野義頼, 大橋裕太郎:シニアの傾向に着目したシニアのための生涯学習パラダイムの構築, メディア教育研究, 第7巻, 第2号, O17-O26 (July 2011).

(2014年4月3日受付)